

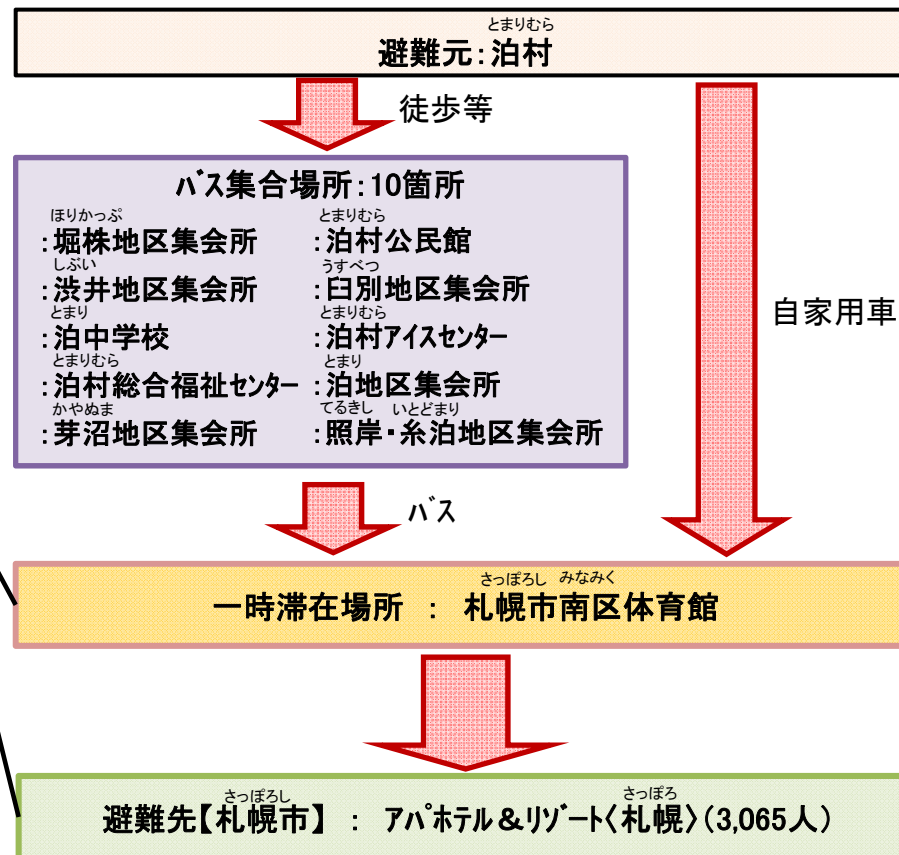
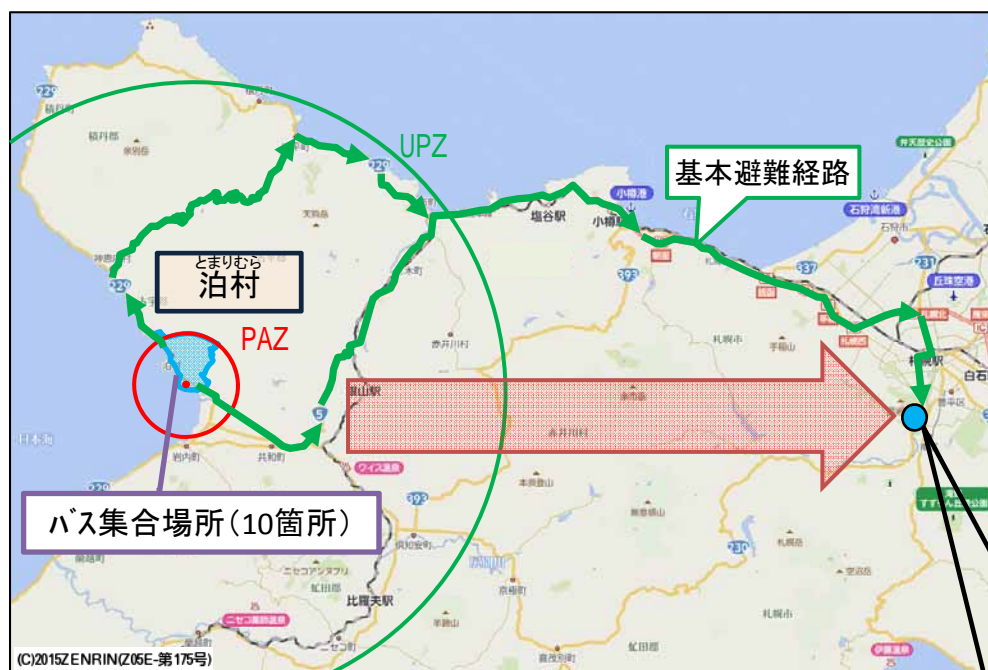
5 . PAZ圏内の全面緊急事態 における対応

<対応のポイント>

1. バス避難に必要となる輸送能力を確保し、避難を開始すること。
2. 避難先の受入れ体制を整えること。
3. 安定剤素剤を配布していない者等に、緊急配布すること。

とまりむら 泊村におけるPAZ圏内の住民の避難先及び避難住民数

- 泊村におけるPAZ圏内の住民については、自家用車で避難する住民は、自家用車により札幌市の一時滞在場所(札幌市南区体育館)を經由し、避難先(アパホテル&リゾート<札幌>)に避難。
- バスにより避難する住民は、徒歩等で各バス集合場所に集合し、バスで一時滞在場所を經由し、避難先に避難。

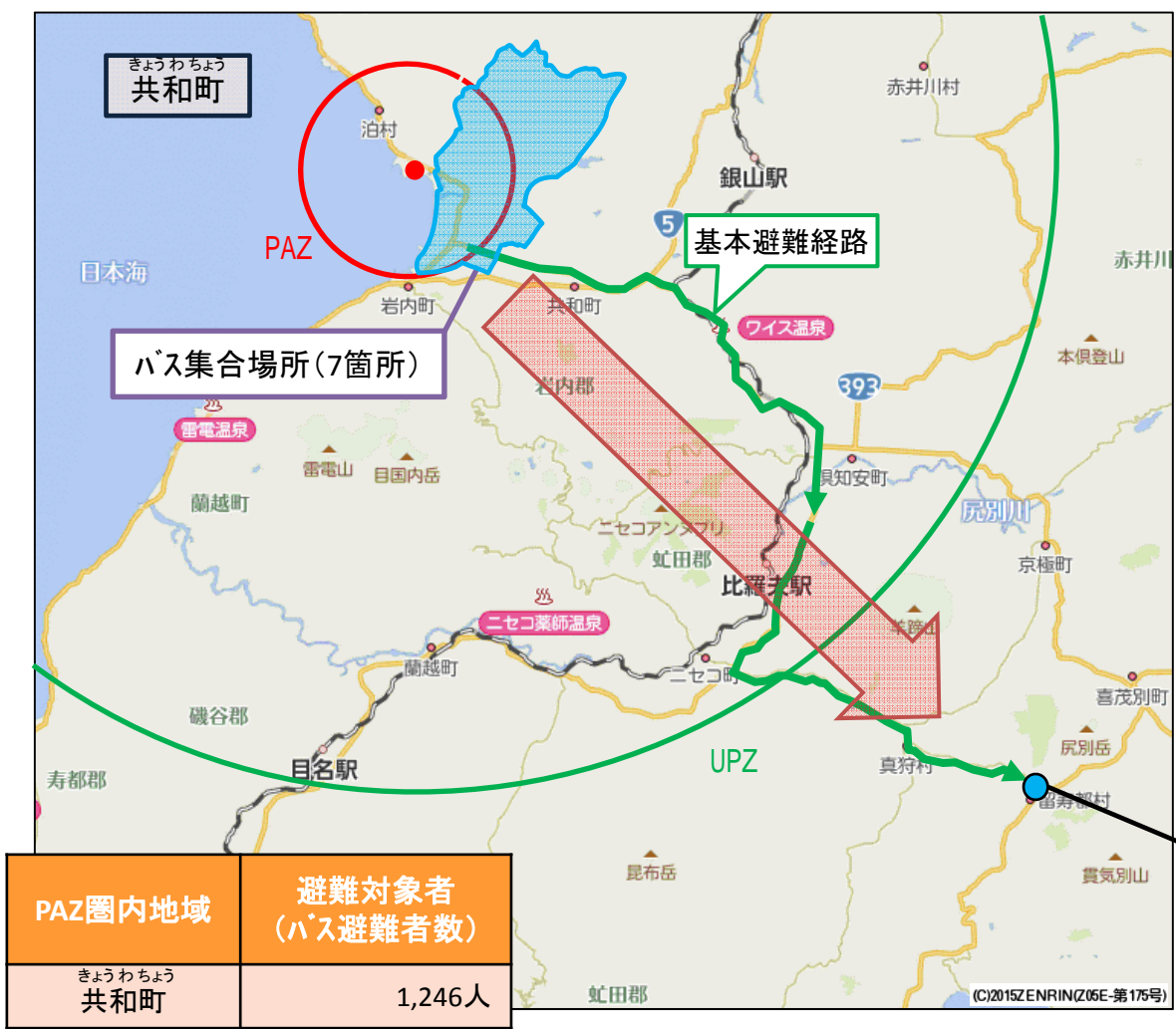


PAZ圏内地域	避難対象者	バス避難者数	自家用車避難者数
とまりむら 泊村	1,136人	473人	663人

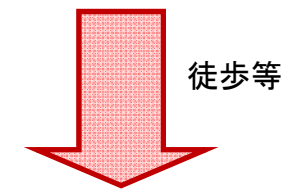
()は収容可能人数

※1 避難先については、啓発資料を全戸配布するとともに、訓練を通じて住民に周知
 ※2 避難対象者数は、PAZ圏内住民の合計数から施設敷地緊急事態で避難する住民を引いた数字であり、若干の増減がある

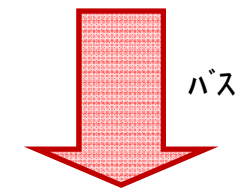
きょうわちよう
➤ 共和町におけるPAZ圏内の住民については、徒歩等で各バス集合場所に集合し、バスにより留寿都村の避難先(ルスツリゾート)に避難。



きょうわちよう
避難元: 共和町



- バス集合場所: 7箇所
- みやおか : 宮丘地区寿の家
 - ほくしん : 北辰小学校
 - ビシムナイ会館
 - はったり : 発足コミュニティセンター
 - はまなす幼児センター
 - はったり : 発足克雪管理センター
 - 北電体育館



避難先(兼一時滞在場所)【留寿都村】
: ルスツリゾート(4,488人)

()は収容可能人数

PAZ圏内地域	避難対象者 (バス避難者数)
きょうわちよう 共和町	1,246人

※1 避難先については、啓発資料を全戸配布するとともに、訓練を通じて住民に周知
 ※2 避難対象者数は、PAZ圏内住民の合計数から施設敷地緊急事態で避難する住民を引いた数字であり、若干の増減がある

- とまりむら
- 泊村において全面緊急事態で必要となる輸送能力は、約470人分:バス17台であり、北海道は「原子力災害時における住民避難用バス要請・運行要領」に基づき、北海道バス協会に住民避難用バスを要請。
 - 北海道バス協会は、同要領に基づく北海道からの要請を踏まえ、住民避難用バスを調整・確保するとともに、更に余裕を持った台数を確保。

とまりむら

＜泊村において全面緊急事態で必要となる輸送能力＞

	想定対象人数※	必要車両台数	備考
バスにより避難する住民	473人	17台	バス集合場所にて乗車 1台あたり40人の乗車を想定 【資料P46】

※ 数字は現段階で泊村が把握している暫定値

とまりむら

＜泊村における全面緊急事態での輸送能力の確保＞

		確保車両台数	備考
		バス	
(A) 必要車両台数		17台	
(B) 確保車両台数		計17台以上	
確保 先	北海道バス協会	17台以上	PAZ・UPZ町村が所在する後志 地域のバス会社が保有する車両 総数1,252台

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、実動組織(警察、消防、海保庁、自衛隊)に支援を要請

- 共和町において全面緊急事態で必要となる輸送能力は、約1,240人分：バス34台であり、北海道は「原子力災害時における住民避難用バス要請・運行要領」に基づき、北海道バス協会に住民避難用バスを要請。
- 北海道バス協会は、同要領に基づく北海道からの要請を踏まえ、住民避難用バスを調整・確保するとともに、更に余裕を持った台数を確保。

きょうわちよう

＜共和町において全面緊急事態で必要となる輸送能力＞

	想定対象人数※	必要車両台数	備考
全面緊急事態で避難する住民	1,246人	34台	バス集合場所にて乗車 1台あたり40人の乗車を想定 【資料P47】

※ 数字は現段階で共和町が把握している暫定値

きょうわちよう

＜共和町における全面緊急事態での輸送能力の確保＞

		確保車両台数	備考
		バス	
(A) 必要車両台数		34台	
(B) 確保車両台数		計34台以上	
確保先	北海道バス協会	34台以上	PAZ・UPZ町村が所在する後志地域のバス会社が保有する車両総数1,252台

※ 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、実動組織（警察、消防、海保庁、自衛隊）に支援を要請